

刊夕日四廿月三



定額 一紙五錢 一月一元五角 三月四元五角 半年八元五角 一年十六元五角
電話 六三〇〇 印刷部 電話 六三〇〇
發行所 常磐毎日新聞社 印刷所 常磐毎日新聞社
印刷部 電話 六三〇〇 印刷部 電話 六三〇〇

自行と化他 (二)

眞繼 雲山

眞言宗において身口意三業を佛の如くならしめんといふ三密加持は自行の分であり、我れ人共に一点の缺くるところ無からしめんといふ輪圓具足(四種曼陀羅)の思想は化他である。

淨土門において、我れ先づ極樂に往かんといふ往相廻向は自行であり、極樂から還つて來て彌陀の代官となり、衆生を救済しやうといふ還相廻向は化他にあたる。

然らば、その自行と化他と、いづれを先きにすべきやといふに、素と前後あるにはあらず、二者の一味を極意とするのである。教育者が教鞭を捨て街頭に辻説法することが佛法でなくして、教育者としての月給を

貫ひ正しく任務を果たすといふ自行が、そのまゝ化他にあたるのである。女房が亭主や子供を捨て、救世軍に走ることが奉仕の道ではなくして、良夫に

つかへ子女を教養する主婦のつとめ、そのまゝが他を利するの行である。或る人の或る妻女の死を悼みて、まめやかに妻と母との勤めおへて逝かせる君を佛なりけると詠じたが、それである

自行が他の一切と交渉渉であつては正しき正しき自行といふことは出来ない。往相廻向と還相廻向とはそれがそのまゝ一味のものであることを要する。良忍上人が行二切行と教へられたのは、その徹底境を示されたのである。

彼岸

好間

吉田青柳子

無雜作に挿し有る花や彼岸桐
彼岸雨上りて露に浮く灯
彼岸會に掛けし涅槃の古軸哉
犬塚に彼岸園子を供へけり
鶯瓢忌や早や五つとせの彼岸入

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名会社 電話一〇番

藤沼醫院

平町紺屋町 電話七〇五番

生徒募集

一、卒業年限 兩科通ジテ一ケ年
一、入學資格 高等小學卒業又ハ同等ノ學力アル者へ無試験入學ヲ許ス
一、申込期日 四月八日迄

平一丁目

石城看護婦學校

校長 鷹崎千代 電話三五七番

外科 X光線科 性病科 外科

安齊外科醫院

平町田町 電話四七五番

小兒ノかん・むしニあかひき丸堀藥局 平町二丁目 電話三二六

難波醫院

平町新川町 電話五〇二番

貸切は●●●

セダン揃ひで 貸切専門の

昭和三十三 電話三四三



玉屋洋品店

平町田町 電話五六六番

お醤油は ヤマフル

醤油味噌 たいら正宗 鯉節食料品

山崎合名会社

福島縣平町 電話營業部ニ醸造工場ニ 明治生命製糖代理店 山崎與三郎

安イハ 靈造花 樞其他 臺其 夫人ト葬具 一ノ式 安イハ

平橋小路電話三五五番

平各小學校優等受賞者

平第一校

尋常科第一學年

進 只野信男 萩原竹雄
高野秀雄 鈴木晋平(第
二組)千葉直彦 半谷正
文 杉本光男 吉田博
安藤破魔夫 坂本秀雄
馬目順 水野武雄(第三
組)稻島正 青木肇 木
田菊壽 小野勝三 長谷
川利 田島秀則 隈川仁
治 永山泰平 吉村進
(第四組)高階文三 小林
靖 大野光男 小川芳勝
大津賀淺吉 鈴木將夫
小原健次郎 福田節

尋常科第二學年

尋常科第一學年
(第一組)酒井健 清水俊
政 吉田敬治 小野晃平
中澤幹太郎 片寄武夫
柴田春雄 馬目欣之助
磯上剛(第二組)鈴木滿男
橫山榮一 藤田文朗 龜
岡光弘 大谷繁雄 小園
井邦男 本多茂方 本多
正行 阿部淺香(第三組)
渡邊義國 岡田孝平 牧
野好夫 水野敏夫 橋本
壽 鍋田三省 渡邊通
稻島幸三 田村尚顯 原
雄一 鈴木甲一(第四組)
石川榮一 野口一男 松
本英一 薄葉忠久 小沼
正春 小川信親 水野榮
三 關原進 豊田聰明
大塚寔

尋常科第三學年

尋常科第二學年
(第一組)鈴木善彌 三井
眞一 木下藤三 遠藤好
一 櫻井博 飯沼賢一
齋藤修三 坂内享 飛田
常重 氏田精一 永山剛
一(第二組)若松壽彦 松
本眞平 吉田利彌 渡邊
弘道 中川圭二 小山田
俊夫 關内新一 戸石雄
二 鈴木重雄 和田敏夫
山崎常三郎(第三組)龜山
正邦 飯島登司 小松崎
富夫 新妻唯男 小谷由
男 根本幸一郎 半谷英
二 會澤三郎 加藤一郎
花海甲一 永野節

尋常科第四學年

尋常科第三學年
(第一組)佐々木高澄 清
水重政 宮本武雄 菅本

尋常科第五學年

尋常科第四學年
(第一組)小坂隆通 藤田
榮一 酒井洪 坂本行藏
藁谷公義 淺野仁 關内
弘吉 吉田光弘 新妻常
雄 星野剛(第二組)柴田
讓 安齋憲次郎 大泉嘉
平 山崎福次郎 小鍛冶
弘文 堀英一 柴田健治
板倉茂男 永山武廣 新
井保知(第三組)關原定之
伊關太郎 安齋光男 佐
川清 龜岡憲太郎 吉田登
吉崎春雄 蛭田光一 山
浦一陽 星野隆 橋本喜彦

尋常科第六學年

尋常科第五學年
(第一組)志賀純一 志賀
正義 中野義廣 片寄藤
次 藤田晋一 石崎久雄
吉田浩 山浦晋一 長瀬
泰輔 大森昌一 矢野浩
一(第二組)根本忠雄 山
下卓明 高野邦一 岩崎
久治郎 星野喜四郎 八
田宗市 中川信一 萩原
茂人 鈴木康男 酒井英
安(第三組)名尾卓郎 山

高等科第一學年

尋常科第六學年
(第一組)遠藤越夫 橋本
喜言 鯨岡孝 中澤啓一
大坪章 草刈建 江口成
年 山家重三 弓野治郎
作山友人 柴田如雄(第
二組)志賀長平 長瀬高
行 和田壽夫 長谷川隆
松田浩一 櫻村洋 龜岡
進一 高田憲一 阿部榮
五 高階偲 河田稔(第
三組)有馬德衛 北野正
明 山田晋 小林晃 紺
野繁雄 遠藤茂 石島清
仁 金成賢一 阿部宏四
郎 大原馨 阿部貞太郎

高等科第二學年

高等科第一學年
(第一組)寺門友巳 猪狩
五郎 石井實 鹿島幹司
佐藤信雄 引地守 高
羽繁夫 鈴木三郎(第
二組)鹽澤友吉 齊藤武
雄 福田保夫 永山隆夫
山村光作 増尾孝助 石
川勇三 松崎利光

高等科第三學年

高等科第二學年
(第一組)船山勝衛 酒井
貞良 平井鐵三郎 松本
貞雄 渡邊芳明 箭内重
利 木村幸一(第二組)大
塚辰雄 今宮浩 古川滿
左男 渡邊貞壽 鈴木長
平 川島廣榮 日野喜富

高等科第四學年

尋常科第一學年
(二組)千葉玲子 大和田
キヨ子 渡邊なか子 眞
木禮子 黒木智子 永島
悦子 蛭川悦子 五十嵐
澄子 若松ヨシ(二組)濂

高等科第五學年

尋常科第二學年
(一組)梅津吉子 關原芳
枝 横山タカ子 叶多公
子 關内敏子 五十嵐シノ
ブ 木村アイ子 志賀恭子
花澤アヤ子(二組)馬目靜
櫻村多美 關内滿壽子 木
田秀子 野口チエ子 三浦
榮子 高橋キミ子 佐藤
トヨ 菅本幹子 谷島靜
江(三組)原つね子 酒井
良子 田仲マスコ 阿部
英子 佐々木アイ子 三
瓶和江 坂本勝子 新妻
英子 川角京子(四組)淺
野敬子 吉田貞子 村山
佳子 櫻庭美代 山名惠
美子 松石重子 高澤ひ
ろ子 中村照 鯨岡久

高等科第六學年

尋常科第三學年
(一組)根本ツネ子 小園
井瑞美 飯塚さと子 鳥
海珠 橋本喜代子 福島
綾子 金澤久江 石川清
子 桑田隆子 樋口道子
(二組)梶原フミ 關内義
子 長瀬喜美 齊藤光子
高木絢子 木村ユキ子
杉山ツキノ 佐藤惠美子
瀬尾美佐子 鈴木恒子
(三組)大和田順子 端山

高等科第一學年

尋常科第四學年
(一組)吉田愛子 小野光
子 近藤シヅ子 楠田初
枝 中島多美 鍋島ハツ
ノ 石井美智子 江川照
子 廣邊昌子 佐藤トヨ
鯨岡富子(二組)石山小夜
子 大和田智恵子 桐谷
つね 佐々木繁子 横山
キエ子 橋谷田壽子 松
崎悦 中村茂 中村光
藤沼里子 青山佳子(三
組)市川隆子 江尻ミヤ
子 小野淺子 菅野文子
中野弘子 石川秀 村上
富子 栗田ケイ子 大谷
トシ 高階翠 佐藤スミ

高等科第二學年

尋常科第五學年
(一組)熊トトリ子 佐藤繁
子 會田初子 飯島しげ
阿部弘子 川島キミヨ
本間トヨ子 金澤幸江
鈴木ヨシエ 驛塚テフ
(二組)阿部トシ子 氏田
ハツ 阿部智恵子 星野
明代 高橋敏子 伊藤ハ
ルヨ 大塚アサ 根本廣
子 渡邊まり子 森久子
(三組)松本節恵 芹澤節
子 木田カクヨ 久保木
ヨネ 小野文子 新妻セ
イ 兼田ヨシ子 上村恵
美子 長谷川好枝 佐藤
富貴子

高等科第三學年

尋常科第六學年
(一組)菜花トミヨ 橋本
良子 堀川喜美子 松田
眞子 色川ヒデ 山崎ヒ
橋キミ 子竹村弘 眞土

高等科第四學年

尋常科第一學年
(第一組)堅田美咲子 齊
代(二組)萩原次子 吉
成彌生 吉田喜美子 佐
々木春子 吉田清子 酒
井嘉代子(三組)白土ワカ
根本久子 吉田昌子 菅
野定子 田村英子 鈴木
玉枝 小泉てつ子 小宅
シゲ(四組)大和田迪子
高木照子 熊ヤス子 唯
野秀子 吉田千恵子 豊
田州枝 大塚咲子 荒川
ハナ子

高等科第五學年

尋常科第二學年
(一組)諸橋クニ 稻邊ユ
キ 青木好子 曹錫玉
藤田トメ 大友ヤエ子
田村まり子 桐谷文平
山ミナ 高野英子(二組)
和田登美子 飯島ふみ
村上文 吉田ハナ 小谷
サキ子 中條ツヤ子 相
場富子 泉エイ 神場艶
子 長谷川キヨ

高等科第六學年

尋常科第三學年
(一組)中山ミヤ 石井ミ
ネ 小島ミチ 關根道子
根本幸枝 先崎フミ 古
山キク(二組)花海ミツ
志賀カヨ 中村夏江 宇
田川フミ 吉田ミカ 飯
田キクエ 猪狩トシ

高等科第一學年

尋常科第四學年
(一組)松崎幸子 橋
本克己 阿部愛子 木村
康 根本八重子 松崎佐
二郎 今田美代子 野本
輝子 平松美代 水庭シ
ヲ(二組)野澤芳男

高等科第二學年

尋常科第五學年
(一組)加美山さと
田中富美子 加美山さと
佐藤一 鯨岡文子 菊地
堯雄 安齊太郎 新井靜
江 辰野知子 佐藤哲夫
(二組)佐藤正子 大
橋キミ 子竹村弘 眞土

高等科第三學年

尋常科第六學年
(一組)芳賀ミサ子 橋本
ヨ子 芳賀ミサ子 橋本
福本文子 鈴木一好(尋
二男)寺門武彦 吉田眞
一 井上明 牛澤芳男
鈴木高光 鈴木剛二 藤
田信藏 野木明 齋藤市
太郎 猪狩侯夫 佐藤喜
代治(二女)野澤登記枝
永島佳子 鈴木文子 林
清子 志賀綾子 影山サ
ト子 小林ツヤ子 高萩
芳子 加藤春子 佐藤ヒ
サヨ 江尻朝子(三男)
松崎惣兵衛 今田實 野
木明 瀧口勝久 多田井
鸞雄 田中賢治 金成桂
一 佐藤光雄 橋久 吉
田義男(三女)白土貞子
張文子 奈良岡シメ 新
妻ハル 箱崎幸子 川崎
初子 白土ノブ子 玉木
勝子 林淑子 平澤ツタ
三森信子(尋四男)諸橋富
彌 平野井珪造 荒四郎
鈴木勇次郎 佐藤進 植
村力夫 石川四郎 金成
忠美 永島弘弘(尋四女)
井上和子 丹野千鶴 高
田秋子 高萩秀 岡田幸
子 遠藤チイ 鈴木省子
佐川トヨ 鈴木ミツ子
澄川ケイ子 武子トシ
(尋五男)田中榮太郎 鳴
原宏 齋藤重雄 白土弘
福本新太郎 平野井正治
驚甚一 鈴木二郎 難波
一郎 吉田喜造(尋五女)
橋ノミ 林節子 鈴木ひ
で子 柴田美津 小菅イ
ノ 白土美子 阿部ミチ
寺門敏子 金成俊子 目
黒ミヨ 今田操(尋六男)
安孫子義秀 丹野英明
鈴木洋一郎 橋八郎 鯨
岡登一 松崎康利 楠松
力雄 根本淳平 小椋次
男 緑川忠良(尋六女)太
田由子 橋トヨ 野木鏡
子 里見安子 箱崎綾子
佐藤光子 草野清子 谷
川マサ子 堀江光子 瀧
光子

出征兵遺族に

金一封

後援會では出征遺族慰籍の爲め同會長村井知事より御菓子料として金一封を贈る事になり平町役場では本日左記出征遺族廿六名に夫々傳達した

- 長谷川伊左工門 緒形誠吉 赤津カメヨ 阿部菊藏 大竹國之助 緑川セン 小宗銀平 長谷川辰之助 井上政吉 木村常吉 佐藤利兵衛 深谷サク 猪狩又吉 小林安太郎 志賀安治郎 江尻豊 鈴木信太郎 兒山達二 柏原幸次郎 青天目源一郎 柳原イチ 川上ハナ 安川イネ 藤社セキ 松本ミツ 大金兼吉

今回 本縣 満洲 駐劄 軍人

功勞を語る

金馬簾輝く

平署功蹟を調査

平署では今春四月行はれる春期聯合消防檢閲に際して金馬簾を授與すべき消防組を調査の結果夏井川堤防の改修基本林森の増殖をせる下小川消防組、鐵骨火ノ見櫓の建設及び村道改修せる玉川村消防組、難破船の救助及び火防貯水池を設備せる夏井村消防組、小學校の砂利工事と鐵骨火ノ見櫓を建てた鹿島村消防組の四組を縣へ申請中である

産業博

開催準備

昭和産業博覽會では四月一日の開會日も愈よ接近したので来る廿六日午後七時より第一會場來賓接待所に於

夫と口論の二人より突き飛ばされたるを怒り同人が右好喜屋より出て来るを待ち受け所持せる「タオル」に拳大の石を包みたるものを持つて同人を毆打し全治六週間を要する傷害を與へたる傷害事件は佐々木判事係り山本檢事關與審理中の處本日罰金七拾圓に處せられた

高野服罪

殺人未遂事件

平町鍛冶町高野四郎(三)の強盜殺人未遂事件は裁判長より懲役五年を言渡された事既報の如くであるが此れが控訴權は本日迄の處昨日午後一時拋棄し直ちに服罪した

平信用組合の新理事決定

既報本日午後一時より平庶民金庫に於いて新總代會開催の結果従来の七理事の内三森虎雄、阿部政右工門兩氏が引退し諸橋久太郎、山崎與三郎の兩氏が新理事に當選したが残る五理事は從前の如く柏原幸次郎、星野清吉、野崎滿藏、青沼録太郎、關内正一の五氏である

登山して焚火

一町餘を焼拂ふ

石城郡湯本町宇寶海居日野利春(三)及同人弟良高(三)の兩名は廿一日同町高倉山に登つて焚火し附近山林一町餘を焼拂つたので森林法違反として平署に取調を受けた

音楽科

設備費寄附

縣立磐城中學校々友會では本年一月より新學科として實設された同校音楽科の設備として二百圓の寄附をなしたので村井知事より十七日付を以つて表彰された

兒童献納

飛行機建造に

平第一、第二、第三各小學校に於ける全國兒童軍用飛

速成栽培

普及の講演

石城郡玉川村青年團では昨廿三日團員の速成栽培普及の爲め郡農會柴田技手並に同村の篤農家志賀澤之助兩氏が小學校にて農事講演を

主家の

賣溜金

盗んで逃走 手長小僧

平町久保町某商店の小僧山形縣南村山郡上ノ山町長吉長男梅津長次郎(二)は昨夜家人の寢靜まるを待つて賣溜金卅圓を盗み逃走したが平署發覺越線午前五時四十分分列車にて郡山經由郷里に向つたらしいので平署で

殺人求刑

懲役十二年

石城郡赤井村大字鹽田字北澤一番地鈴木清政に對する殺人事件公判は既報の如く昨日午後一時より平支部公判廷に於て中島裁判長關口佐々木兩陪席判事係り市川檢事立會の下に開廷檢事より懲役十二年の求刑あり言渡しは来る三十日午前九時である

相談所へ寄附

郷軍人分會では昨廿三日平署人事相談所に兵事關係方面へ利用せられたいと金百圓の寄附を申出た

永戸村主婦會

石城郡永戸箕輪組合村の永井小學校では昨廿三日午前九時より兒童の學藝會を催し午後は二時から同村主婦會の

明日の天気 廿五日

今朝は北東の風曇り明日は北西の風晴れ

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) 獨唱とピアノ獨唱津島しんピアノ雀部康子ピアノ伴奏金須嘉之進
- 後七、三〇 講演「電氣應用の進歩に就て」工學博士鯨井恒太郎
- 後八、〇〇 連續講談「渡邊五郎次」第一席一龍齋貞山
- 後八、三〇 大儀神樂 岩手縣神寶郡内川目村

明日の部

- 前九、一〇 料理献立「玉葱の蒸し焼」松本良雄
- 前一〇、三〇 家庭講座「科學的玩具に就て」永澤謙三
- 後〇、〇五 落語「血脈」春

風亭柳條

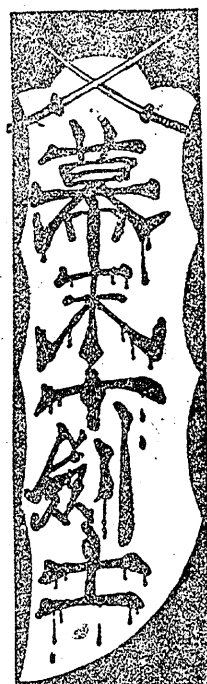
- 後二、〇〇 婦人講座「子供はどの風にならな風に指導すべきか」女子學習院教授今井熊太郎
- 後六、〇〇 子供の時間 童話 桑原自驅
- 後七、三〇 記念講演「電氣週間の由來及趣旨について」電氣協會々長京都電燈株式會社々長田中博邊五郎次」第二席一龍齋貞山
- 後八、三〇 河東節「七重八重花栗」山彦米子外
- 後八、五〇 放送喜劇「笑ひ泣きの夫婦」曾我廻家五九郎外
- 後九、三〇 奉天より

總會を開催し組合村長高萩正一氏の講話があつた

平職業紹介所報告

求人者の部

- △女中兼兒守 一八迄尋卒 仕着外四圓位(四倉町某教員)
- △雜夫 廿才以下、尋卒、月五圓位(豊間村某鮮魚商)
- △賣溜 廿才迄、尋卒、牛乳、お茶、一本一錢(小野新町某)
- △理髮師 廿五以下、高卒 月十圓位(平町某理髮店)
- △求職の部
- △鐵工見習 一六才、高卒 給料面談(好間村某)
- △雜夫 五一才、高卒、給料面談(平町某)
- △店員 廿四才、高三修、給料面談(茨城縣助川町某)
- △小使 五十才、尋卒、給料面談(平町某)



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

【第九席】

神影流の達人秋山要介

(9)

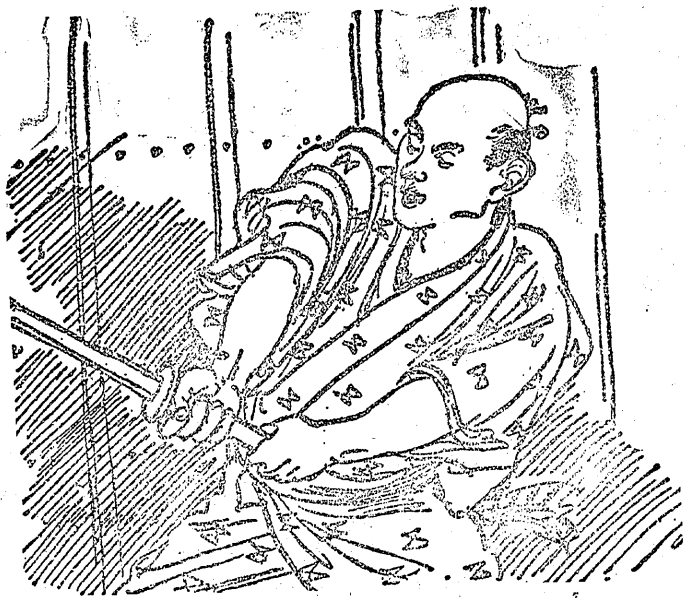
町道場を開く

秋山要介は中野藤十郎から根岸に道場を開けと勧められ、要介は閑静な土地に剣術の道場を開いても門人はまゐるまい。藤、イエ先生の偉い事が判れば遠方より教を乞ひにまいります。どのやうな地形のよい場所なればとて品物が悪ければ繁昌いたしません。要介はさうか然し俺は貴様の云ふほど偉い人物ではあるまいが、勧めに任せ道場を開く事にいたそう。茲に藤十郎が資金を出して根岸の御行の松の路傍に道場を建てたが茅葺の四角板壁窓には簾を下げてある。

要介これを見て「要介、道場とは思へぬな、百姓家のやうだな」藤「それは先生立派には出来ません。貴下の金一兩二歩、それでは物置も建ちますまい、そこで私が八兩二歩足して十兩でこしらへたこの道場地代は年二貫五百、何しろ閑かな土地ですから秋までは宜うございませぬ。夏になつたら田畑から赤蛙を捕つて来て、それを附焼にして酒の肴になさい、然うすれば入費もかゝりませぬ」要介「恐ろしい所

だに藤「然し先生、貴下の腕前の優れて居る事が知れると五里十里から稽古に來ます」要介「腕を知らせるまでは目撃もかゝるであらう。まア其内には五人や三人の門弟は附くであらう」と笑つて居た。一人では不自由ですから下男を雇つた

も未だお弟子が來ないやうだが、一體先生は剣術は上手かそれとも下手かね」要介「左様、先づ武士一人前は出來るであらう、最早上手の皮を飛出して名人の部に入つたかとも思ふ」治「それならお弟子が附きそうなものだが」要介「俺の傑物なる事がまだ世の中に知れぬ。孔子も常に遇はずと申した事もある」治「花の咲くまで待つて居らねえ、お前さんの偉い事を世の中に知らしたらよからうな」要介「それは好ましくない、名を賣るは卑劣だ、と云つて一生埋れ木で終るも残念ならん哉、我は價を持つ者なりとな」治



これは飛彈の高山在の者で治助といふ朴訥者。治「先生道場は粗末な物だが看板は立派でございませぬ、節無し」の檜で、神影流剣道指南所秋山要介藤原正勝としてございませぬ、それにして

成る程なあとどうだね、先生悠うしたらば貴郎の名が早く知れるだらう」要介「どんな事をする、治「俺は此方に參る前に牛込寺町の竹中と云ふお醫者様の許に奉公して居ります。處が病人が

來ねえでな、是も居る所もよくねえ、寺町でな」お醫者に寺は縁があるが、御幣擔ぎの者は來ませぬや、と云つて其先生は下手では無え、長崎まで行つて修行したのだ、此先生は偉い事を知らせるは世の人の爲になる事と思ひ、其處でわしが夜中に家を脱け出して寝て居る家を叩き起し、此近所に竹中先生といふ上手なお醫者様があるさうだがそれは何處に居りますか」と斯う云つて聞いたのだ。それから病人が大分押寄せて來ていつも玄關に五人や十人の藥取は絶えぬやうになつた、イヤ先生も偉く喜んだが、不運な人で、晩の酒の肴に河豚を食つて中毒

を打つ剣術は無からう、參つた恐れ入りました」一生懸命治助は治助は羽目をたいて居る、處が此處は往來する者が少い、御窓から見るは越中富山の藥賣りに豆腐屋位、それでは治助が苦勞した甲斐もありませぬ。要介は酒を飲みながら治助の羽目をたたくのを見て笑つて居ます。

だね先生、こんな様にしてあなたの名前を世の中に知らせては然し醫者様とは違ふから夜中に出懸て寝て居る者を叩き起し、あなたの名を云つてその住ま居を尋ねる事は出来ねえ、そこで此羽目をボカ竹刀を打ち叩いて、お前、お小手、お胸、參つたと云つたらあの道場には大分弟子があると云はれ、これが評判になつて繁昌するでございませう。

時春!!!
◎新入學生の通學に...
◎セヒ必要の時計を...
◎ゼヒ必要の時計を...
営業種目
時計 眼鏡
指輪 電燈
其他貴金屬
市原醫院
平町 田町
電話一四番

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番
江戸前料理 倉巻
御重辨入當辨
大和漬 お鬼からやきもつやき
御重辨當五十人分揃へました
ゼヒ一度御試食下さい...
出前迅速 錦水
田町末廣東隣り(電話四五四番)
内科 醫學博士 難波陸
平町新川端(釜屋新宅向)
電話五〇二番
お様子方入學進級の御用意
ヤルツ
靴。子帽生學
ルセドンラ
總革製
七十八錢
九十錢
一圓卅錢
四圓廿錢
電話一四番